

第4回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会
～指摘事項と対応～

平成30年2月28日

■第3回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会での指摘事項（1/2）

「資料1：指摘事項と対応」に対する事項

協議・質問内容	回答・対応など	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> pH測定について、機器の校正等の精度確保については了解したが、pHが10を超えるのは特異な状況であり、計測値が異常値を示すこともままあるので、現地調査時には計測器を2台用いるなど、工夫をお願いしたい。 	<p>【回答】 ご指摘の点に留意して調査を行います。</p> <p>【対応】 特にpHが上がる夏季には、pH計を2台現地に持参して計測するようにしました。</p>	<p>資料-2 P.36</p>

「資料2：3巡目モニタリング調査結果の概要」に対する事項

協議・質問内容	回答・対応など	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> データ集で確認すると、St.3でトンボ類が多く確認されており、良い環境と思われる。この地点について、環境などを教えてほしい。 	<p>【回答】 この区間は水域部の拡幅を行わず、従前の神戸川を保全している区間となります。</p>	<p>資料-2 P.31</p>
<ul style="list-style-type: none"> 「シジミ属」はタイワンシジミかマシジミかと思うが、なるべく詳しく同定した方が良い。サンプルを保管してあるか。 	<p>【回答】 サンプルとして保管しています。</p>	<p>—</p>
<ul style="list-style-type: none"> イタチについてはマニュアル等の問題かもしれないが、ニホンイタチとチョウセンイタチで示した方が良い。 	<p>【回答】 表の脚注に無人撮影では両種の判別がつかない旨をコメントしています。</p> <p>【対応】 河川水辺の国勢調査の生物リスト(H29)に従い、「ホンドイタチ」としました。</p>	<p>資料-2 P.62</p>
<ul style="list-style-type: none"> St.8のブルーギルやオオクチバスについては、放流している可能性もあるが、発生源が分からないか。 	<p>【回答】 河川管理者としてできることを検討します。</p> <p>【対応】 流入の可能性も指摘されているため、当該地域上流のため池の調査を実施しました。</p>	<p>資料-2 P.46</p>
<ul style="list-style-type: none"> ヒモハゼについては、これまで島根で確認されていない為、島根のRDBに記載されていない可能性がある。貴重なデータであり、標本などをしっかり残してほしい。 	<p>【回答】 了解しました。標本を保管しています。</p>	<p>—</p>

■第3回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会での指摘事項（2/2）

「資料2：3巡目モニタリング調査結果の概要」に対する事項

協議・質問内容	回答・対応など	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> 漁協などとは連携した調査を実施してほしい。具体的には、シジミ・アユについてモニタリングを行っていることは評価できるが、産卵場の詳細調査の中止などもあったためである。調査で得られた情報は、漁協にとっても有益であるので、うまく連携して調査してほしい。 	【回答】 了解しました。今後の調査においても連携を図りながら実施するよう留意します。	—
<ul style="list-style-type: none"> シジミについて、大きな個体が減っている印象がある。 	【意見】 漁区と禁漁区が入れ替わっており、漁協が稚貝を撒いているので、傾向について何か言うのは難しい。	—
<ul style="list-style-type: none"> シジミとシルト粘土分との相関はあるのか。 	【意見】 シルト粘土分が多いと、稚貝は少ないが、その場で成長すれば大きな個体となる。	—

「資料3：4巡目モニタリング調査計画の変更」に対する事項

協議・質問内容	回答・対応など	対応資料
<ul style="list-style-type: none"> 運用後に河口閉塞の状況はどうなったのか。場合によってはモニタリングが必要ではないか。 	【回答】 河川巡視等において河口閉塞の状況を確認しており、河川管理上対応が必要な場合は、土砂撤去を行っている。環境モニタリングとは切り離れた対応としたい。	—

■神戸川漁協との調整事項

依頼内容	回答・対応など	対応資料
斐伊川放水路モニタリングで実施している産卵場調査については、仔アユへの影響に配慮し、昨年と同様の調査内容にしていきたい。	【回答】 踏査圧の高い詳細調査については産卵期での調査を取り止め、踏査圧の低い現地踏査については、十分配慮した形で実施することで了解を得ました。	—

モニタリング調査計画の変更

神戸川の現状や委員指摘・漁協要請を受け、担当委員に相談し、今年度の調査計画を修正した。第3回斐伊川放水路環境モニタリング協議会後に変更した箇所を赤字で示す。

■ 4巡目（平成29年1月～12月）調査項目

調査項目		調査範囲・地点	調査時期	調査回数		
保全 対策 効果の 検証	ワンド調査	物理環境	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	秋～冬	1回	
		植生図作成	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	秋～冬	1回	
		魚類	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	夏	1回	
		底生動物	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	夏	1回	
		植物	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	夏	1回	
		鳥類	AW1、AW8、AW9、NW1、AW4	(春渡り期)・繁殖期・越冬期	3回	
河川 環境の 変化の 把握 (全般)	河川環境基図	群落組成調査	調査範囲全域	秋～冬	1回	
		植生断面模式図	調査範囲内で7断面	秋～冬	1回	
		河川調査(河川研従調査)等	調査範囲全域	秋～冬	1回	
		植生図作成	調査範囲全域	秋～冬	1回	
	河床構成材料調査	St1、St2、St3、St4、St5、St6、St7	秋～冬	1回		
	水質	定期水質	新崎屋橋、妙見橋、馬木大橋	通年	12回	
		放水路下流湛水部	馬木、湛水区域上流、半分大橋、 古志大橋、神戸堰上流、放水路(9k600)	通年	7回	
	魚類※1	St1、St2、St3、St4、St5、St6、St7、St8	春・夏・秋	3回		
	底生動物	St1、St2、St3、St4、St5、St6、St7、St8	夏・冬	2回		
	植物	St1、St2、St3、St4、St5	春・秋	2回		
	鳥類	神戸川：L12+R12=24地点	(春渡り期)・繁殖期・秋渡り期・越冬期	4回		
	両生類・爬虫類・哺乳類	St1、St2、St3、St4、St5	春・夏・秋	3回		
	陸上昆虫類	St1、St2、St3、St4、St5	春・夏・秋	3回		
	沈水植物	St8	夏	1回		
河川 環境の 変化の 把握 (代表種)	シジミ調査	定量調査	新崎屋橋上下流の4測線で各7地点	春・秋	2回	
	アユ調査	遡上調査	神戸堰両岸	春～初夏	10回	
		産卵場 調査	踏査	神戸堰下流部、放水路合流点より上流の瀬	秋	4回
			詳細調査→ 物理環境調査	馬木新大橋上流のアユ産卵床整備箇所、 区間調査で主要と思われる地点	秋→冬(アユ産卵後)※2	1回
		仔アユ降下調査	神戸堰上下流	秋	2回	
付着藻類調査	馬木吊り橋付近	夏	1回			

※1 春季・秋季調査で、放水路湛水部へ流入するため池でブルーギル確認調査を追加実施。

※2 産卵場における産卵実態の把握は、仔アユ降下調査結果から考察する。